

STAX power amplifier

DA-100M ¥230,000



DA-50M ¥160,000



●いま、アンプの回路が大きく変わろうとしています。その第1号機がDA-100M、そして第2作がDA-50Mです。これまでも“音を良くする回路テクニック”がいくつも提案されてきました。そしてその多くが確かに優れた成果をあげ、すでに常識的に使われている方法もあります。ところがそれらの方法の因果関係は問われもせず、解明されるわけでもなく習慣のようにそれこそきのうまで(!)使われていたわけです。いわく、スルーレートを高くする、低NFB化して裸特性を広帯域化する、高域まで低インピーダンスの電源を使う等々。これらのテクニックが実は電源ノイズを相対的に小さくするという方向にすべて位置づけられることがスタックスの検証によってあきらかになったのです。全段対アース増幅、これがその回路の名称です。従来(現在か?)最も一般的で代表的なアンプ回路を見直してみますとそのすべてが初段と終段は対アース増幅と言えるものの2段目に於て電源電圧を基準とする対電源増幅と言ったほうが適切と言える回路になっています。これが電源ノイズを信号に加算して終段に送り込むルートだったのです。特に超高域に於てはNFBとゲインの関係でノイズの増幅率のほうが信号の増幅率より大きくなってしまいう現象すら起っています。これが“電源回路を替えると音が変わる”と言われてきた大きな要因であったのです。

そこでこの2段目を純粋に“アースを基準とする増幅”つまり電源ノイズが理論的にも関与しない回路にすればよい、こととなります。その回路が全段対アース増幅というわけです。(PAT. PEND.)。この新回路に加えて、初段にスーパーシャント電源を配し、正統の純A級動作100W及び25Wまで(DA-50Mは50W及び12.5Wまで)純A級で最大出力100W(DA-50Mは50W)のAB級動作切替え機能や信号経路にリレー等の音質を劣化させる接点が挿入されない3重の保護回路、便利な入力ON・OFFスイッチなど、“スタックスの製品”にふさわしい内容として“音”です。

アンプはブラインドテストでお選びください!

	DA-100M	DA-50M
回路方式	全段対アース増幅方式純A級モノラルDCパワースタックアップ	
最大出力(8Ω負荷/A級、AB級とも)	100W	50W
周波数特性(+0、-3dB/1W出力時)	DC~500kHz	DC~450kHz
高調波歪率(10Hz~20kHz/0.03W~最大出力)	0.008%	0.008%
入力換算ノイズレベル	-126dB以下	-122dB以下
入力感度/インピーダンス	1.4V/100kΩ	1.0V/100kΩ
負荷インピーダンス	4Ω以上	4Ω以上
ダンピングファクター(1kHz)	500以上	500以上
ゲイン	26dB	26dB
スルーレート	100V/μs	70V/μs
使用電源	100, 117, 220, 240V/AC50~60Hz	
消費電力(A級時/AB級時)	370W/220W	200W/110W
外形寸法(W×H×D)	200×268×433mm	133×226×375mm
重量	15kg	7.5kg
備考	AB級動作時の純A級増幅は、DA-100Mは25W、DA-50Mは12.5W。LEDピークインジケータ、入力オンオフスイッチ、サブソニックカット入力端子、3重保護回路付	